

あこ

瀬戸内市文化協会
平成31年2月20日発行
第15号

地域伝統文化の紹介

ししこま

牛窓町牛窓の東部で女の子が生まれて初めての八朔(旧暦8月1日)に行われた行事のことで、八朔をひなまつり、「ししこま」まつりといひ、一般に行われている3月3日の桃の節句と同じように雛人形を飾り、米の粉で作った団子を供えることも、地区の子供に貸し与えたものです。

女の子が初めての八朔(初雛)の家では、親類や近所の人たちが朝から手伝って「ししこま」を作ります。米の粉を練ってこれを蒸し、うすですべて団子にし、「ヘラ・クシ・ハサミ」を使って「鯛・海老・鮎・南瓜・みかん・みょうが」など海の幸、山の幸の形を作り、それに似合う色粉で彩色し美しく仕上げます。

出来上がった「ししこま」は、ひな壇に供えることも、近所の子供たちに貸していました。与えるものでもなく、もらうものでもなく、貸すものであり借りるものです。

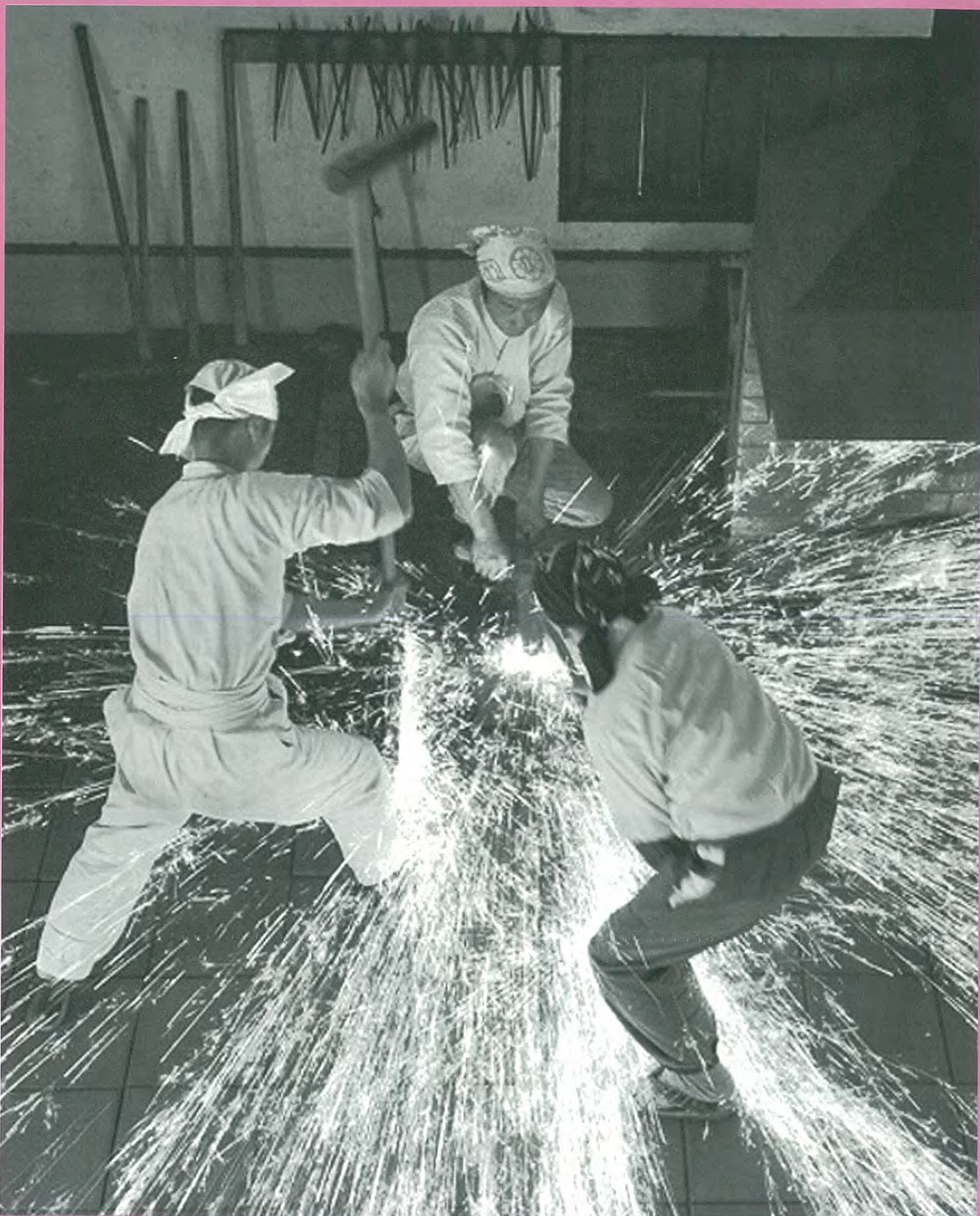
いつの日にか「あなたの家に女の子が生まれたら、返してもらいましょう」という考え方、つまり喜びを永遠に分かち合うという精神によるものです。

昔、獅子や狛犬を作り地元の神社へ御供していたことから「ししこま」と呼ばれるようになったと思われる。

昭和初期ごろに廃止されましたが、西町地区で保存会を立ち上げ、今は10人ほどで行っています。

他に例のない民俗行事で、昭和62年12月に牛窓町無形民俗文化財に指定されました。

ししこま保存会会長(千場喜久江)



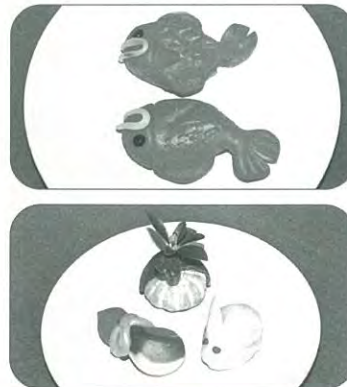
古式鍛錬 (備前長船刀剣博物館所蔵写真)



ししこま作り



ひな壇へお供え



表紙「古式鍛錬」
日本刀は、数多くの様々な工程を経て造られています。この中でも特に中心的な工程は、折り返し鍛錬と呼ばれる鍛錬になります。この折り返し鍛錬は、熱した鋼に切れ目を入れて、折り返し重ね、また鍛えるという工程を繰り返して行います。写真は、人力で行う古くからの方法で行われる折り返し鍛錬の風景を切り取っています。

会員の受賞・入選

おめでとうございます
第65回日本伝統工芸展「入選」

- 黒井 博史 「鉄軸幾何文鉢(陶芸) 改組新第5回日展「入選」
- 奥田 利勝 「赤い振袖」 (洋画)
- 神宝 亜希子 「Bright」 (洋画)

会員募集

「瀬戸内市文化協会」の会員を募集しています。みんなで瀬戸内市の文化を育てていきましょう。

◎お問い合わせ・お申し込みは

- ◆教育委員会社会教育課 (34-5604)
 - ◆中央公民館 (22-3761)
- へご連絡下さい。

編集後記

本号では、瀬戸内市が購入を計画している国宝 太刀(無銘一文字(山鳥毛))などの日本刀の制作工程を特集しました。

〈編集委員〉

- 小林直明 赤木輝美子 野崎 泉
- 下山 公子 妹尾 薫

平成30年度 瀬戸内市文化協会役員

- 顧問 森 陶岳 岡村三平
 - 参 奥田桂峰 西浦千方太
 - 会 黒井千左 岡崎吉三郎
 - 長 清水 徹
 - 副会長 小林直明 三上澄明
 - 事務局長 松川広己
 - 監 森崎昭生 奥田悦代
 - 常任理事
 - (清水 徹) 立岡隆子 上野洋子
 - (妹尾 薫) (三上澄明) 藤間善清
 - 梶谷 栄 大倉順恵 山下皓与
 - 神戸淑子 奥田利勝 坂手得二
 - (小林直明) 三木裕紀 稲荷 作
 - (松川広己) 上森豊玉 小林翠玉
 - 西 岳海 刈屋長子 柴田和子
 - 四十塚正子 池畑富美子 横山好美
 - 下山公子 松尾俊介 野崎 泉
 - 馬場初根 石黒徹夫
- 理事 94名

日本刀の制作工程

日本刀は、鉄を極度に鍛え上げ、「鉄の芸術品」と呼ばれるまで昇華し、日本の技術の高さを証明する最高傑作の一つといえます。

また、美しいだけでなく、技術力の粋を集めた日本刀は以下のような工程を経て制作されていきます。

日本刀の制作工程

日本刀は、砂鉄から日本古来の製鉄で産まれた玉鋼たまがねを使用してつくられますが、玉鋼をただ延ばすだけでは完成しません。

最初の制作工程は、玉鋼を熱して薄く打ち延ばすことから始まります。熱した後、急冷却すると、炭素量が多くて硬い部分は割れていきます。

こうして割れた鋼を、玉鋼で制作されたテコ棒とテコ台と呼ばれる長方形の板の上に積み重ねていきます。積み重ねた後は、火床ひとこ(炉)の中でじっくりと熱していき、十分に熱されると、数回大鎚で叩き鋼同士をくっつけていきます。

折り返し鍛錬

次に、板状になった鋼を折り返す工程にはいります。これを「折り返し鍛錬」と呼びます。

「折り返し鍛錬」は、熱した鋼に鑿うねを入れて二つ折りにし、また熱し鑿を入れ、二つ折りにすると

いう工程を十五回程度行います。この工程により、約三万二千七百六十八層もの薄く緻密な鋼の層が生まれます。緻密な層から日本刀の強さと粘りが生まれてきます。

「折り返し鍛錬」には、同じ方向のみ折り返す鍛錬する方法と、縦方向と横方向を交互に折り返し鍛錬する方法等の様々な鍛え方があります。

心鉄しんがねと呼ばれる炭素量が少なく柔らかい鋼と、皮鉄かわがねと呼ばれる炭素量が多くて硬い鋼の二種類の鋼を使うことが多いのですが、どちらも「折り返し鍛錬」を行います。

造込みく焼刃土を塗る

「折り返し鍛錬」の工程を終えると、心鉄と皮鉄を組み合わせた「造込み」と呼ばれる工程に入ります。

柔らかい素材(心鉄)と硬い素材(皮鉄)を組み合わせることにより「折れず、曲がらず、良く切れる」という日本刀の最大の特徴が生まれてきます。

鋼を再び熱し棒状に打ち延ばし、刀としての形を整える「火造り」の工程を経て、「焼刃土を塗る」工程に入ります。

この工程では、焼刃土と呼ばれる土が使われます。焼刃土の製作は、秘伝であることから刀工ごとに変わりますが、粘土や粉炭、砥石の粉などを

材料に製作されます。

焼刃土を塗るのは、刀身への熱の伝わり方の速度を変え、硬い鉄と柔らかい鉄の相反する二つの特性を持つ鋼を作り出すためです。

刃の部分は硬くするために土を薄く塗り、その他の部分は柔らかい状態で保たせるために土を厚く塗ります。

また、このとき刃となる部分に、線状の文様を描くように土を置くことで、「丁子」や「互の目」といった様々な刃文が描かれます。

この描かれる刃文は、それぞれの地域の特徴が出てきます。例えば、備前国では「丁子」や「互の目」といった刃文が良く描かれています。特に、一文字派や長船派と呼ばれる刀工集団は、丁子刃文を得意としています。

焼入れ

この後、再び刀身を熱し水で急速に冷やす「焼入れ」と呼ばれる工程に入ります。この工程を経ると日本刀の特色である「反り」や「刃文」が生まれます。

そして、研ぎなどの工程を経て刀身が完成します。

このように、一つ一つの工程で、日本の伝統工芸が得意とした緻密で計算し尽くされた技術を注ぎ込み、日本刀は造られます。

備前長船と日本刀

このように、日本刀は日本の伝統技術の粋を集めた美術工芸品です。その中でも特に備前国での

日本刀は、圧倒的な生産量と優れた品質で知られています。

優れた品質を示す指標として、国宝に指定されている日本刀の数を挙げると、現在国宝に指定されている日本刀は、百十一口ありますが、備前国で作られた刀剣は、四十七口、割合で示すと四十二パーセントを占めます。

このように備前国は、名刀の産地として知られ、特に瀬戸内市長船町では、福岡一文字派や長船派といった有名な刀工集団たちが作刀を行っています。

福岡一文字派の傑作と称される国宝 太刀(無銘一文字(山鳥毛))も福岡一文字派の手によって、この地で生まれました。

※山鳥毛について

文化財登録名は「やまとりげ」。国宝『上杉家文書』に「山てうまう」と記されているところから、「さんちようもう」と呼ばれています。

この文章の作成には、『新編 寒山刀剣教室附・資料編』・『長船町史』を参考にしました。

備前長船刀剣博物館学芸員(杉原賢治)



刀匠の作業風景



① 火床(炉)



② 玉鋼を熱して薄く打ち延ばす



③ 折り返し鍛錬



児童への指導

毎週木曜日の午後1時～6時まで会費無料（冷暖房使用時のみ100円）で中央公民館2階の和室で20人ほど集まって自由対局を楽しんでいます。小学生も数名参加。どなたでもどうぞ。

また、新春将棋大会への協力、5月は瀬戸内市長杯への協力、年8回の邑友タイムで生徒を指導、8月は市内の小学校や中学校での児童・生徒を指導、10月は瀬戸内市文化祭にて子どもや大人が集った将棋大会に協力。

このように年間を通して伝統的なゲームである「将棋」の普及・拡大に努めています。皆さん、奮ってご参加ください！

瀬戸内市将棋クラブ（松尾 俊介）

伝統的な「将棋」を皆さんで楽しみましょう！

各部の活動紹介

「コール・プラタナス」―五周年を迎えました

「コール・プラタナス」は2013年に発足した混声合唱団です。始まりは「いったったか」と忘れてしまう程、小さな出会いです。歌の好きな女性が、「一緒に歌いましょう」と福岡ふれあいプラザで月2回、簡単な合唱に挑戦するうちに、徐々にレパートリーも仲間も増えました。会の名称も、初演奏会のために、「付けた方がいいかも」と会員のご主人が考えてくださいました。現在は、福岡地区の催しや老人ホーム等での演奏、文化祭への参加と、演奏を聴いて頂く機会も増えてきました。本当に嬉しい限りです。

そして、五周年を迎えた現在、それぞれがその思いを込めて歌いながらも、合唱の楽しさを味わっている会でありたいという、発足当初からの想いは変わらず、これからも歩んでいけたらと思っています。

コール・プラタナス（小山 紀子）



中央公民館でのロビーコンサート

瀬戸内市文化協会第2回絵画展

―夢二のふるさと光と風―を開催

標記の絵画展を瀬戸内市立美術館3階ギャラリーSで去る12月18日（火）から24日（月）まで開催しました。

今回は瀬戸内市が竹久夢二を輩出したまちとして郷土の誇りであると共に、日本を代表する芸術家であることを、市民の方々に再認識して頂くことを目標に開催しました。作品は文化協会絵画部会員10名の作品で日本画・洋画大小合わせて34点の作品を展示、絵画展の開催時期が、年の瀬も押し迫った12月であったにも関わらず、268名のご入場があり、それぞれの作品を熱心に鑑賞していただきました。

また、会場に展示作品の批評、感想、意見等をご自由にご記入していただくための、メモ帳を備えておきましたところ、作品に対する評価、身近なモチーフに対する親近感、絵画展の度々開催希望等、大変貴重なご意見をたくさんいただくことができました。これらは

次回の絵画展開催の参考にさせていただきます。

絵画部（小林 直明）



夢二の作品コーナー



瀬戸内市の文化祭風景

牛窓会場

10月20日(土)～21日(日)

牛窓町公民館で公民館グループを中心に14分野の作品を展示しました。21日のステージ発表は14団体が日頃の練習成果を存分に発揮され、観客の皆さんを魅了していました。なお、関連行事として、20日には「囲碁大会」・「健康チェック」・「スポーツ吹矢体験会」・21日には「前結び着付け体験会」が開催され、また、午前10時から大講座室において、牛窓いきいき学級でカトリアシスターズの「歌と芝居で笑いまSHOW」が実施されるなど充実した2日間の日程を終了しました。



「花のある生活を」
拈華微笑へ(以心伝心で…)」

流祖が故事から付けた微笑流を、後に上杉謙信の命により改名したのが美笑流の起源です。美笑流華道展、県展、市展、教室、中学生の部活動、会場の献花、奉仕活動等々、又他流派の華展に出かけ相互の親睦を深める…等々、一年中花と向き合っています。中でも公民館文化祭は、邑久町4流派合同華展でも意義があります。今年度は子供いけ花体験のコーナーもあり、素敵な作品が出来ました。会場には多数の皆様がおいで下さり、そこはお話の花が満開でした。最後に公民館長さんより「花の姿に感動した」と褒めて頂き、次への意欲となりました。これからも花のある生活で潤いと安らぎで心豊かに過ごせたらと念じております。

美笑流(柴田 和子)



子供いけ花体験コーナー

邑久会場

10月20日(土)～21日(日)

好天に恵まれた今年の文化祭は「劇団花みずき」の演劇・歌謡ショーとフルト演奏「セレナー」で開幕しました。中央公民館を会場にステージ発表と市民創作展が開催され、大勢の来場者の方々が熱心に鑑賞され、楽しく交流されていました。絵手紙体験では子ども達が真剣に筆運び、作品作りを頑張っていたのが印象的でした。



「瀬戸内市ポピュラー音楽研究会」
ギター講習会

ポピュラー音楽で頻繁に使用される「ギター」を身近に感じてもらうため、秋ごろから福田コミュニティを中心に各所で数回にわたってギター講習会を開催してきました。講師にはメジャーアーティストの楽曲のギターレコーディング実績がある青山哲也氏を迎えて行い、小学生から20代前半の若くてギターを始めたばかりの方たちが参加しています。ギターにもさまざまな種類があります。この講習会では、エレキギターはアンプを使って音を鳴らし、アンプは弾くと鳴るので、きれいな音色で鳴らすことを教わる事ができます。今後は若い世代だけでなく、幅広い世代の方たちにもギターとポピュラー音楽の魅力を知ってもらうための活動をしていきたいと思っております。

瀬戸内市ポピュラー音楽研究会(内田 瞬)

長船会場

11月10日(土)～11日(日)

長船町公民館では年々盛大となった恒例の菊花展が、華をそえてくれました。文化祭では、いろいろな体験コーナーもあり、写真・書道・陶芸等各グループの作品が展示され、日頃の鍛錬の成果が作品に表れていました。また、ステージ発表ではコーラスやダンス等各グループが日頃の練習の成果を発揮され、和やかな雰囲気の中、大勢のお客様で賑わいました。発表のお手伝い、喫茶、食堂などの運営は、ボランティアの協力もあり、無事終了しました。



ギター指導